

1. 整備計画									
計画の名称	愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeを巡る歴史・文化観光活性化計画 (重点)								
計画の期間	平成29年度 ~ 令和3年度	交付対象	静岡県						
計画の目標	本地域は、東西に新東名高速道路、東名高速道路、国道1号などが繋がり、東海道を軸とする古くから人・物・情報が行き交う連携の強い地域である。昇龍道プロジェクトを推進する中部広域観光推進協議会では、歌川広重が浮世絵に描いた宿場町や近世の日本に泰平をもたらした徳川家康に代表される武将ゆかりの地などを巡るUkiyo-e Routeの交流人口拡大のため、圏域の観光プロモーションに取り組んでいる。昇龍を創造する両県の観光拠点では、歴史・文化施設の保全や受け入れ環境向上、伝統的行事の保存、新たな広報戦略など、誘客に向けた様々な取組を行っている。 本計画は、テーマ性・ストーリー性を持つ昇龍道Ukiyo-e Routeを軸に、観光拠点間や高規格幹線道路とを結ぶ交通の利便性を高める道路整備など、観光拠点の広域的特定活動を支え、更なる観光活性化を図る。また、しずおか中部連携中核都市圏における観光連携を高め地域の発展・活性化を図る。								
計画の成果目標 (定量的指標)									
<ul style="list-style-type: none"> 愛知県・静岡県の共通目標 観光客数218万人(H27)から224万人(H33)に増加 (60万人 (2.8%) の増加) 静岡県の目標 愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数67,606千人 (H24) から70,971千人 (H33) に増加 (3,365千人 (5.0%) の増加) 重点地区「清水都心ウォータフロント地区」日の出エリア来場者数203,000人 (H26) から219,000人 (H33) に増加 (14,000人 (7.8%) の増加) 									
定量的指標の定義及び算定式									
					定量的指標の現況値及び目標値			備考	
					当初現況値	中間目標値	最終目標値		
					(H27, H24, H26)		(H33末)		
①	愛知県・静岡県 共通目標：愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H27の年間観光客数) / (H27の年間観光客数)				218,313千人	千人	224,338千人		
②	静岡県 目標：愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H24の年間観光客数) / (H24の年間観光客数)				67,606千人	千人	70,971千人		
③	重点地区「清水都心ウォータフロント地区」日の出エリア来場者数を203,000人 (H26) から219,000人 (H33)に増加 (乗客の増加割合) = (評価時点の乗客数 - H26の年間乗客数) / (H26の年間乗客数)				203千人	千人	219千人		
全体事業費	合計 (A+B+C)	4,460 百万円	A	4,460 百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		
事業種別	主な交付対象事業	要素となる事業名 (事業箇所)		事業内容 (延長・面積等)		市町名	全体事業費 (百万円)	備考	
広域連携		(国) 150号志太橋南BP (焼津市三和)		バイパス L=3.3km		焼津市	345		
事業数		(二) 黒石川 (焼津市小川)		河道拡幅 L=0.25km		焼津市	989		
6		清水港		道路改良 (嵩上) L=2.0km		静岡市	450		
2. 事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 -：その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等))(計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込)									
計画の移行なし	○	6	△	-	備考	計画の移行あり	●	▲	
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況									
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況									
一般国道150号志太橋南バイパスを始め6事業の整備を推進し、一般国道150号志太橋南バイパス、(二)都田川ほか及び清水港(道路)の整備が完成したことにより、拠点施設間のアクセス性向上や観光地の魅力向上により、観光客の増加に寄与したと考えられる。 ・A11-001：一般国道150号志太橋南BPの整備により、当該区間の旅行速度が向上した。(整備前：23km/h、整備後：35km/h) ・A11-006：清水港の道路改良により、高潮時の冠水による通行止め回数が減少(整備前：約2回/年、整備後：約0回/年)し、清水港周辺を訪れる観光客の交通アクセスの安全性・快適性が向上した。									
II 定量的指標の達成状況	指標① (愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数)	最終目標値	224,338千人	目標値と実績値に差が出た要因	愛知県・静岡県の観光客数は、H31年度時点では、最終目標値を上回ったが (H31実績：233,630千人)、最終目標値は達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出自粛や外国人観光客の訪日制限等があったことが要因として考えられる。【愛知県】R3実績値：89,166千人 (参考：H31 159,292千人)				
		最終実績値	132,045千人						
	指標② (上記のうち、静岡県内における観光客数)	最終目標値	70,971千人	目標値と実績値に差が出た要因	静岡県の観光客数は、H31年度時点では、最終目標値を上回ったが (H31実績：74,339千人)、最終目標値は達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出自粛や外国人観光客の訪日制限等があったことが要因として考えられる。				
最終実績値		42,879千人							
指標③ (「清水都心ウォータフロント地区」日の出エリア来場者数の増加)	最終目標値	219千人	目標値と実績値に差が出た要因	「清水都心ウォータフロント地区」日の出エリア来場者数の観光客数は、H29年度時点では、最終目標値を上回ったが (H29実績：248千人)、最終目標値は達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染症対策として日の出エリアの屋内施設が閉鎖となったこと、クルーズ船の入港がなかったことが要因である。(集計対象施設が閉鎖となったため、来場者集計も行われていない)					
	最終実績値	0千人							
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況									
<ul style="list-style-type: none"> 道路事業では、バイパス整備により、安全で円滑な交通が確保された。 河川事業では、河道拡幅により、治水安全度が向上した。 港湾事業では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、R5年度の清水港で予定されているクルーズ船の寄港数は過去最多となる見通しとなった。これにより清水港だけでなく県内各地への外国人観光客の増加が予想される。 									
4. 今後の方針等									
【今後の方針】 未完了の事業については、本計画完了後も引き続き社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。 (未完了事業) A11-002~A11-004									

(1) 事業の目的

テーマ性・ストーリー性を持つ昇龍道Ukiyo-e Routeを軸に、観光拠点間や高規格幹線道路とを結ぶ交通の利便性を高める道路整備など、観光拠点の広域的特定活動を支え、更なる観光活性化を図る。また、しずおか中部連携中枢都市圏における観光連携を高め地域の発展・活性化を図る。

(2) 指標①：愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数の増加

指標②：上記のうち、静岡県内における観光客数の増加

指標③：重点地区「清水都心ウォーターフロント地区」日の出エリア来場者数の増加

指標の達成状況

H31時点では最終目標値を上回ったが、新型コロナの影響等により最終的には達成できなかった。今後、新型コロナの5類移行に伴い、観光需要増加が期待される。

指標①：R3年度末の最終実績値は132,045千人であり、目標値（224,338千人）を達成しなかった。

指標②：R3年度末の最終実績値は42,879千人であり、目標値（70,971千人）を達成しなかった。

指標③：コロナによる施設閉鎖等によりR3年度末の来場者数の集計なし。（参考：H29実績 248千人）

計画の成果目標	定量的指標			参考：コロナ前
	H27、H24、H26	R3最終目標	R3最終実績	
愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeにおける観光客数	218,313千人	224,338千人 (6,025千人増、2.8%増)	132,045千人 (86,268千人減、39.5%減)	233,630千人 (H31末)
上記のうち、静岡県内における観光客数	67,606千人	70,971千人 (3,365千人増、5.0%増)	42,879千人 (24,727千人減、36.6%減)	74,339千人 (H31末)
「清水都心ウォーターフロント地区」日の出エリア来場者数	203千人	219千人 (14千人増、7.8%増)	0千人 (施設閉鎖により来場者無)	248千人 (H29末)

(3) 指標に関連する実施事例

【道路】▶



【港湾】▶



(4) 定量指標以外の効果発現状況

- ・バイパスの整備により、道路ネットワークが構築されたことから、安全で円滑な交通が確保された。
- ・新型コロナの5類移行に伴い、R5年度の清水港で予定されているクルーズ船の寄港数は過去最多となる見通し。これにより清水港だけでなく県内各地への外国人観光客の増加が予想される。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

新型コロナの5類移行に伴う観光需要増加も見据え、引き続き、各事業の進捗を図ることで、交通・環境・防災等の面から本交流圏の活性化を図る。

(備考-2) 参考図面 (社会資本総合整備計画 広域連携事業)

